

プロジェクト 税効果会計

項目 今後の検討の進め方について

検討の経緯

1. 第 280 回企業会計基準委員会（平成 26 年 1 月 27 日）及び第 1 回税効果会計専門委員会（平成 26 年 2 月 18 日）において、検討の範囲及び進め方が審議され、今後の具体的進め方として、以下のとおり行うこととされた。
 - (1) 専門委員に対し、検討の対象とされた実務指針について、現状の取扱いに関する課題の洗い出しを依頼する。
 - (2) 現状の取扱いに関する課題が指摘された論点については、税効果会計専門委員会において、取扱いの見直しを行うか否かについて審議を行う。
 - (3) 特に現状の取扱いに関する課題の指摘がない項目については、原則として、現在の日本公認会計士協会（JICPA）の実務指針の内容を踏襲し移管する。
2. 第 284 回企業会計基準委員会（平成 26 年 3 月 27 日）及び第 2 回税効果会計専門委員会（平成 26 年 3 月 24 日）において、専門委員より寄せられた課題について説明が行われた。
3. 寄せられた課題の説明を受けて、企業会計基準委員会の委員から、以下のような意見が聞かれた。
 - 課題の中には税効果会計の基本的な考え方に関する論点もあるが、そのような論点よりも実務上問題となっている論点の方を先に検討してはどうか。
 - 繰延税金資産の回収可能性の判断の論点と他の論点とでは、緊急度合いが異なると考える。他の論点を検討するために、全体的として時間がかかるのであれば、繰延税金資産の回収可能性の論点のみを先に検討する選択肢もあるのではないか。

本日の審議事項

4. 本日は、第 3 回税効果会計専門委員会（平成 26 年 4 月 22 日）において議論された、以下の今後の検討の進め方（案）について審議をお願いしたい。
 - (1) 寄せられた課題については、論点が広範にわたっているため、各論点の検討にあたっては、これらをグルーピングし、グループごとに検討順位を決定してはどうか。
 - (2) 具体的には、以下のとおりグルーピングし、グループ 1、グループ 2、グルー

グループ3の順に検討を進めていくことでどうか。なお、グループ3については、グループ2の検討が進んだ段階でスケジュールを検討することでどうか。

- グループ1：税効果の会計処理に関する論点のうち繰延税金資産の回収可能性に関する論点以外で重要と考えられる論点
- グループ2：繰延税金資産の回収可能性に関する論点のうち重要と考えられる論点
- グループ3：個別の特定の取引に関する取扱いなどグループ1及びグループ2以外の論点

(3) 検討のスケジュールについては以下のように進めていくことが考えられる。

グループ	専門委員会での検討
グループ1	専門委員会3回程度。
グループ2	専門委員会3～4回程度
グループ3	グループ2の検討が進んだ段階でスケジュールを検討。

ディスカッション・ポイント

上記の進め方の案についてご意見をお伺いしたい。

以上